

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成27年7月22日
タイトル	「くわい」の出前授業をしたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成27年6月30日（火）福山市川口町のほ場と福山市農業協同組合川口支店において、福山市立川口小学校5年生87名による「くわい」植付け見学と「くわい」の出前授業を取材しました。

福山市立川口小学校5年生は、生産量日本一の「くわい」を小学校で栽培しており、農家の方から「くわい」栽培の話を聞き、農業用水のしくみや環境、歴史、食文化など多方面について学ぶことで、郷土の農業に関心を深めることを目的とした学習に取り組んでいます。

朝、川口小学校近くの川口町のほ場、約1,700㎡で水土里ネット福山の組合員の種本守雄さんの「くわい」植付けの様子を見学しました。種本さんのご家族4名で黙々と植付けをしておられました。約7,000個の「くわい」を全て手作業で植付けられます。子ども達は、その様子を見学し、その後質問をしました。

・植える前に稲のように耕した方がいいですか？

「くわい」も同じように耕します。平らな方が植えやすいし、草が生えない。

・「くわい」の病気は何ですか？

ひぶくれ病といって、葉が火傷みたいになる。雨が少なく高温が続いたり、逆に低温が続くとなる。

・「くわい」の敵はなんですか？

① カモ・・・「くわい」が好物で食べてしまうので、ネットで覆う。

② アブラムシ・・・農薬で予防する。学校では手で取るといい。

③ ゴミ・・・人間が捨てるゴミが田んぼや用水路にいっぱいある。環境の事も考えてゴミを絶対に捨てないようにしてほしい。

・くわいを作ったの喜びはなんですか？

みんなに安心して安全なくわいを届ける事。立派なくわいができると嬉しい。

最後に、子ども達みんなで大きな声でお礼を言って学校へ戻りました。



みんな真剣にメモを取っています！



丁寧に教えていただきました！

続いて、福山市農協川口支店に移動し、出前授業をしました。

出前授業は、地産地消、くわい、農業用水について行いました。

まず、地産地消については地産地消とふくやまSUNブランドについて福山市の地産地消推進課 石井利導主事より、地産地消は地元で生産された野菜を地元で食べる（消費する）という意味でふくやまSUNブランドは、24品目あり野菜が15品目、くだもの8品目、きのこ（しいたけ）が1つあることとお話されました。

ふくやまSUNブランドは使用農薬の検査や品の色、形など厳しい基準が設けてあるそうです。また「福山地産地消の日」は子ども議会の提案で福山の「ふく（29）の日」からとって毎月29日と決められたそうです。



ちなみにイチゴは、野菜になるそうです！

調べてみると、1年生や多年生の<sup>そうほん</sup>草本になる実は野菜で、永年性の樹木になる実はくだものになるそうです。

だからスイカとメロンも野菜に分類されます。

続いて「くわい」の栽培等について、水土里ネット福山の理事で福山くわい出荷組合の枝廣義春前組合長からお話を聞きました。

福山市では約60年前から本格的に「くわい」の栽培がはじまり、約50年前にくわい出荷組合ができた。当時は全て手で掘っていたので非常に厳しい作業だったが、約35年前に水圧ポンプを使って収穫するようになり生産量が増えていき、約20年前に埼玉県を抜いて日本一になった。くわいの種類は、青くわい、白くわい、吹田くわいの3種類で、福山は青くわいを栽培している。前年の収穫時に「くわい」を取っておいて、冷蔵庫で保管しておき、植付前に冷蔵庫から出すと芽と根が出てくるので、それを植える。

「くわい」の茎は1m以上に成長し白い花を咲かせることがある。くわいの収穫の時は、まず茎を刈り取る。それから、ポンプで水圧をかけて掘る。「くわい」もふくやまSUNブランドの1つで、安全なものを安心して食べてもらうため、ふくやまSUNブランドの基準を守っている。

「くわい」は、東京、京都、大阪、奈良、九州、四国等の市場へ1年間で200t、1箱4kgケースで5万ケース出荷している。

子ども達から質問がありました。

- ・くわいの栄養は何ですか？  
主にでんぷん、リンやカリウムも豊富
- ・田んぼの土はどういうのがいいの？  
水稻の田んぼと同じ。
- ・どんな食べ方がおいしいの？  
「くわいっこ」というお菓子もあるよ



次に、水土里ネット福山から農業用水路について子ども達に話しました。

まず、川口小学校がある川口町の水路の水は、芦田川から流れてきている事、そして用水には、市民の生活に使う水道水、工場で使う工業用水、田んぼで使う農業用水があり、川口町の水路の多くは農業用水路ですが、自然に流れてきている訳ではなく、計画的に調整管理している事、このように農業に利用することを「利水」という事などを話しました。

そして、川口町から約15km上流の駅家町の「七社頭首工」という芦田川の堰から取水しており、幹線水路が福山市の市街地にくまなく広がっていて、水路の途中にゴミを取るために「除塵機」という施設があり、毎日ゴミを取ってきれいな農業用水を田んぼへ送っていることを話しました。

役目を終えた水は、海へ流れていく事や福山市の市街地は、海面との差がなく自然に排水することがなく、すべての排水路の出口は海水が逆流しないようにしてあり、排水機によって海に排水される事、雨が降り多時は七社頭首工からの取水をやめるが用水路に雨が流れ込むことから排水機を稼働させ道路や住宅を浸水から守ること、それを「治水」という事や排水機や除塵機の操作には水土里ネット福山の管理者の方の苦労があることを話しました。



難しい施設や専門用語が分かるかな？

子ども達に水土里ネット福山から、豪雨などの災害時や日頃の生活のなかで、ため池や水路に対する防災意識を高めてもらおうと、農業用水路への転落防止など防災について話し、福山市上下水道局の災害備蓄用飲料水「ばらのまち福山の水」を配布しました。

### 川口小学校の小野先生からのクイズ

・川口町の農業用水はどこからきているか？

① 駅家町 ②川口町 ③火星

みんな①番の駅家町に手をあげました。

・ゴミをとる機械を何といいますか？

全員で「除塵機！」と答えてくれました。

・農業用水は、最後に海に出るがその施設はなにか？

全員で「排水機！」と答えてくれました。



最後に、JA福山市川口グリーンセンター見学をし、川口グリーンセンターの三谷庄一次長からお話を聞きました。

川口グリーンセンターで出荷しているものは、きゅうり、イチジク、くわいの3種類で、「くわい」を出荷するときは、縁起物ということで紅白の幕を張って出荷していること、「くわい」を出荷するときは、厳しい検査をして品質の向上をしていることをお聞きし、大きな冷蔵庫を見学しました。



くわいの出荷見てみたい！



大きな冷蔵庫に「お～」と歓声！

最後に川口小学校の小野先生が「今日学んだ事をまとめてどのような形で発信していくか、みんなで考えてみましょう。」とおっしゃり全員で大きな声で「ありがとうございました」とお礼を言って小学校へ帰校しました。

今回の出前授業では、「安心・安全」という言葉が印象に残りました。農家の方は、安心で安全な農作物を作っておられることを実感しました。水土里ネット福山は、これからも「安心で安全」な農作物を作れるよう、農業施設の適正管理や利水調整をまいります。また、このような、農家の方の「声」を子ども達をはじめ、地域の方々に届けることができるよう21世紀土地改良区創造運動に取り組んでいきたいと思っております。